

北九州 PCB 廃棄物処理施設における排ガスのベンゼン協定値超過について

平成 27 年 10 月 30 日に、北九州 PCB 廃棄物処理施設での排ガス測定によるベンゼンの測定値が協定値を超過したことが判明した件について、その後の経過等について報告します。

1. 経過

(1) JESCO から市に対して原因調査結果等を報告（11 月 13 日）

<原因>

- ・ 環境保全上必要な排気処理設備である「深冷クーラー」を、市に相談することなく独断で約 1 年半に渡り止めていたことから、活性炭に負荷が掛かり、破過したためベンゼンが除去できなかったものとする。

<再発防止策>

- ・ 排気システムの抜本改善を図るとともに、今回のようなシステムの不備の事例がないか、他の設備を含めた調査及び検証を実施する。
- ・ 社員教育を通じた安全管理に対する考え方の浸透や安全作業意識の徹底を繰り返し行うなど、安全管理体制の強化を図る。
- ・ 安全設備の管理方法の変更をはじめ、重大なトラブルに繋がりにくい対応や軽微な事案について、市に対して報告及び相談の徹底を図る。

(2) JESCO による社内調査結果を中間報告（11 月 20 日）

- ・ ベンゼン排出の原因の一つと考えられる熱交換機能を停止させた行為は、本来、本社及び事業所審査が必要であったが、その審査が実施されていなかったことが判明（現在調査中）。
- ・ 全社的なガバナンスの在り方も課題として、引き続き、調査・検討を実施する。

2. 現状

(1) JESCO

- ・ 全社的なガバナンスの在り方、及び再発防止策に関して、ソフト・ハード両面の対応や他設備も含めた総合的な対策を検証中。
- ・ 自主的に施設の操業を停止し、PCB 廃棄物の受入れを停止。

(2) 市

- ・ 職員による JESCO 事業所の立ち入り等により、原因究明や再発防止策を含めた総合検証を実施中。

3. 今後の対応

- (1) 原因究明や再発防止策を含めた総合検証を踏まえ、JESCO、環境省、市が総力を結集した安全確保体制をソフト・ハード両面から再構築することが必要。
- (2) これらの一連の取組みを通じて PCB 処理の安全性が担保され、施設の再稼動が認められるかを、市民の安全安心を確保するため慎重に判断する。

(以上)